

汚染水対策の進捗状況及びリスクマップ

2016/09/27

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

2-1 リスクマップ

【参考資料】

参考2-1 リスクマップ詳細

参考2-2 進捗状況一覧表

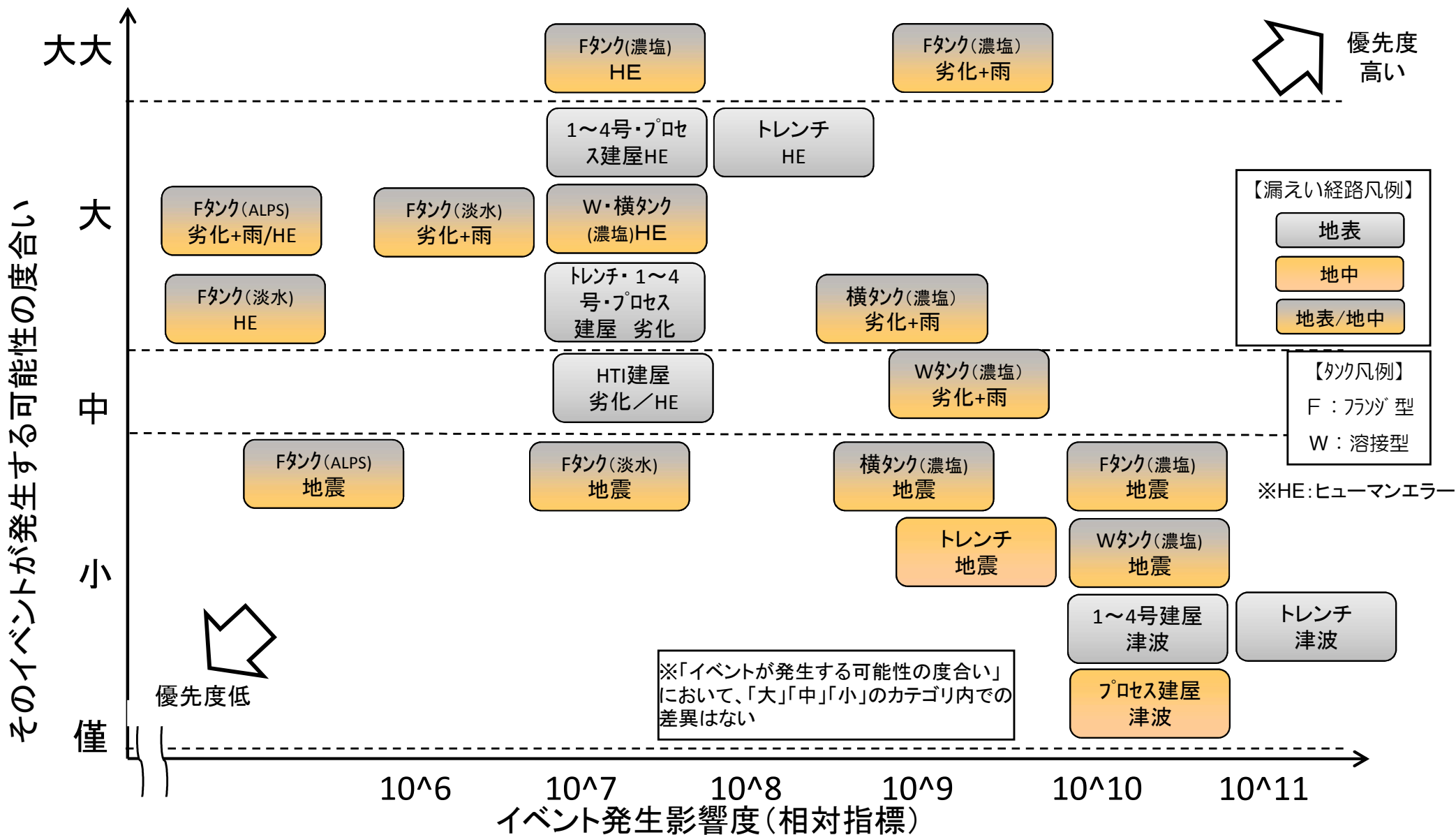
■ 2013年12月に汚染水処理対策委員会にて取り纏めた、「東京電力（株）福島第一原子力発電所における予防的・重層的な汚染水処理対策～総合的リスクマネジメントの徹底を通じて～」の中において「リスクマップ」を作成。

■ これまでの汚染水処理対策委員会において、汚染水対策の進捗を反映し、開催時点のリスクマップを整理し、提示してきた。

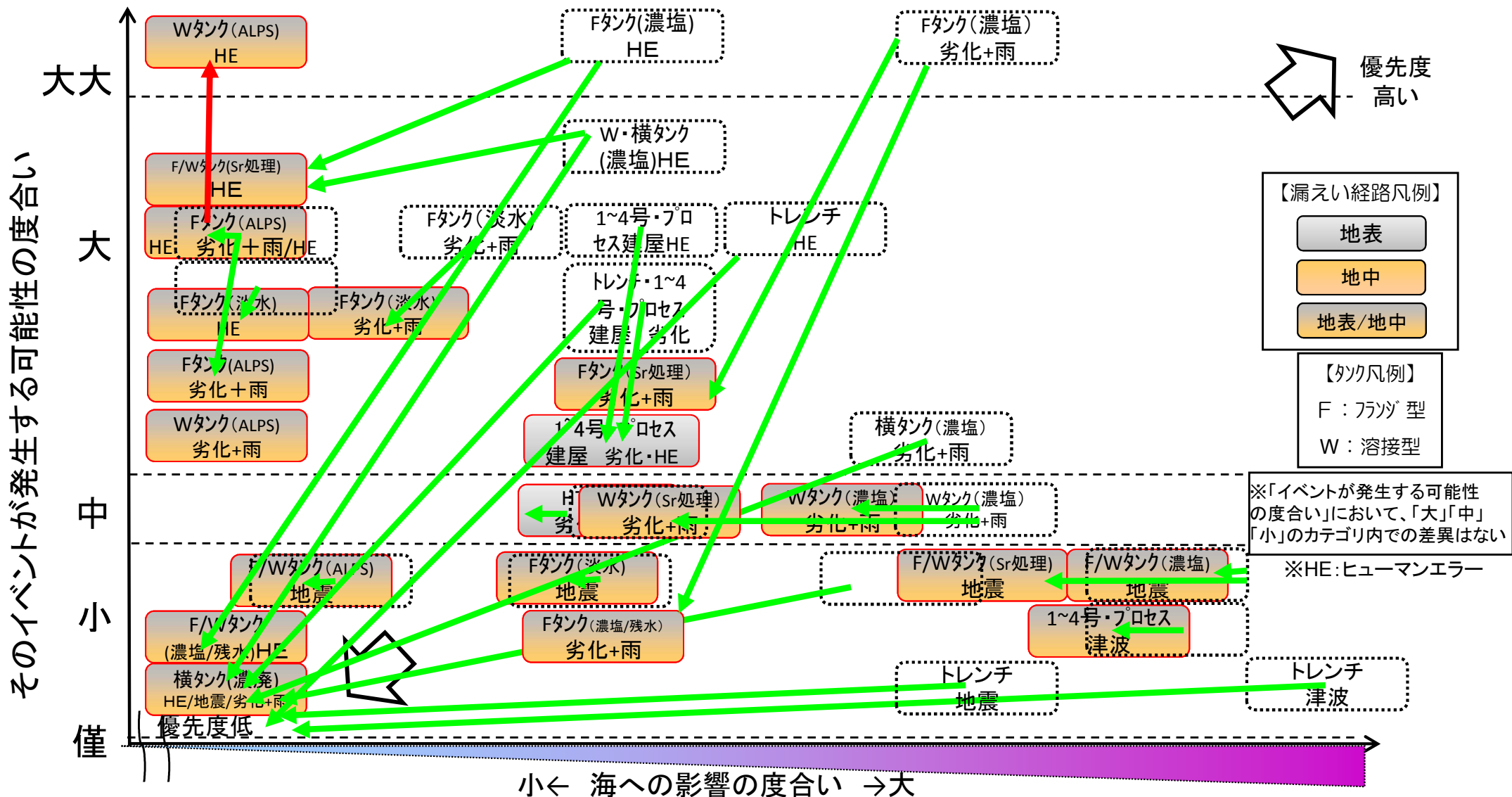
■ 更に汚染水対策の進捗を反映し、現時点（2016.9）のリスクマップを整理し提示する。前回会議（2015.12）以降の主な対策の進捗は以下の通り。

- ① サブドレン水位低下に合わせた建屋水位低下に伴い、水量が徐々に減少。
- ② 濃縮塩水(残水)のフランジタンク解体により、フランジタンク基数が減少。
- ③ フランジタンク(淡水)底板補修により、劣化の可能性が低下。

汚染水イベント発生リスクマップ【2013.12時点】

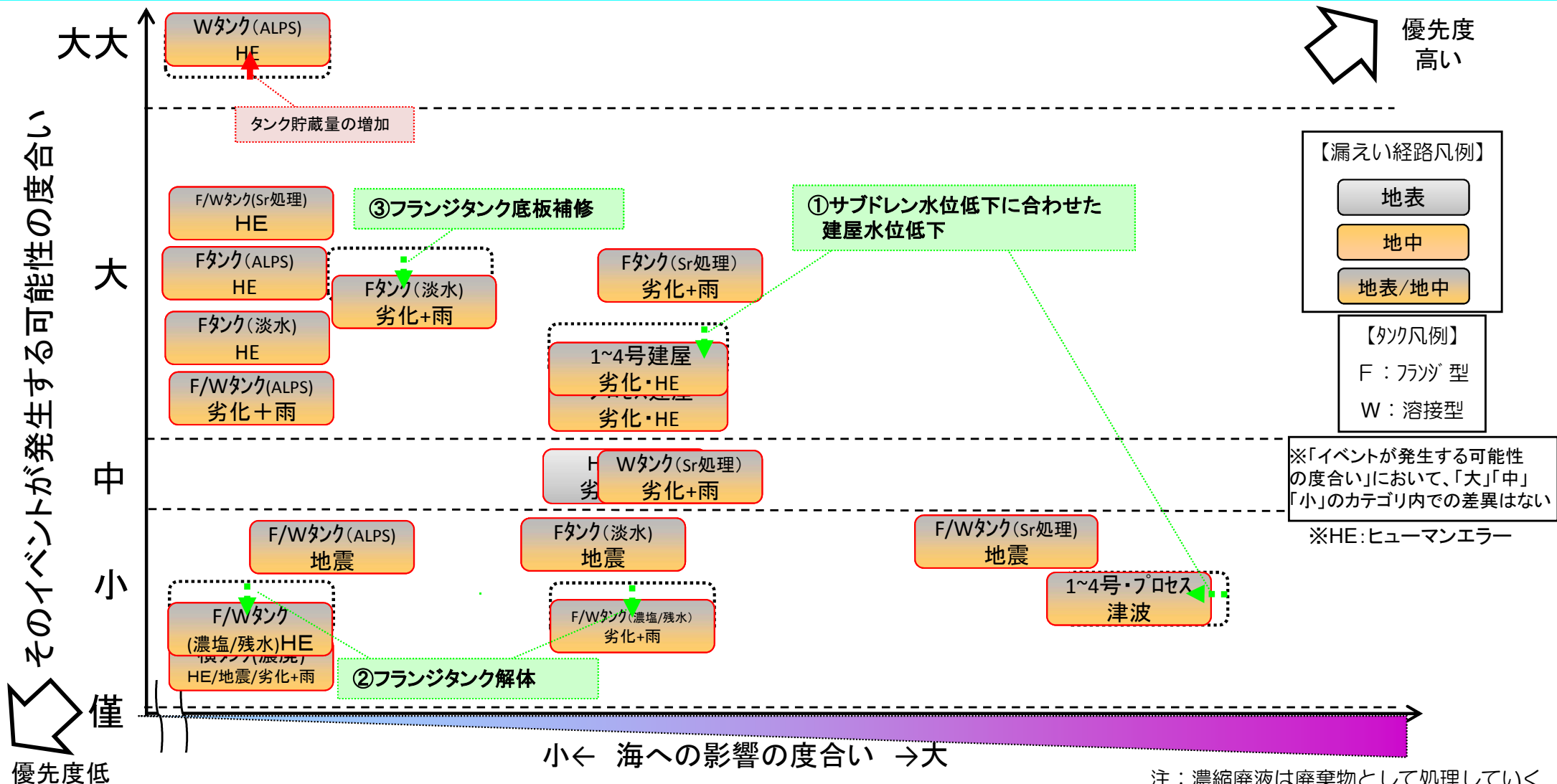


汚染水イベント発生リスクマップ【2013.12→2015.12の変遷】



(3) 汚染水リスクマップ／2016.9時点の整理【2015.12→2016.9の変遷】

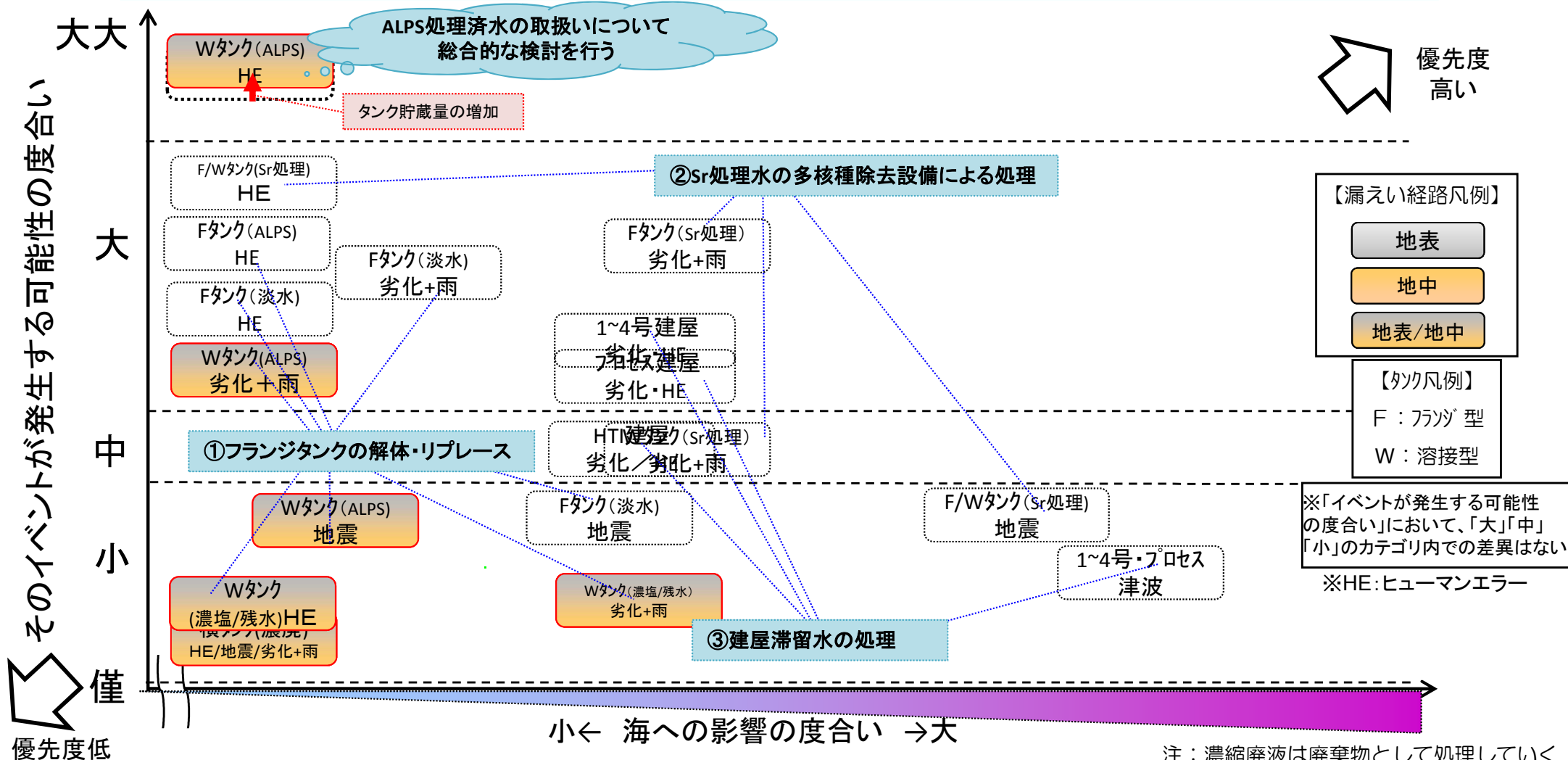
- ①サブドレン水位低下に合わせた建屋水位低下に伴い、水量が徐々に減少。
- ②濃縮塩水(残水)のフランジタンク解体により、フランジタンク基数が減少。
- ③フランジタンク(淡水)底板補修により、劣化の可能性が低下。



(4) 汚染水リスクマップ／今後の対策

引き続き、下記の汚染水対策を進め、汚染水リスクを低減していく

- ①フランジタンクの解体・リプレース
- ②Sr処理水の多核種除去設備による処理
- ③建屋滞留水の処理



注：濃縮廃液は廃棄物として処理していく